

赤い椅子 プロジェクト



わたしたちは、椅子を通して「まち」と「ひと」をつなぐ活動をしています。
赤く塗られた椅子は「まち」の休憩場所として、
また「ひと」の思いを共有するアイコンとして「まち」の歴史をつなぎます。

©KoichiDoyo



● step1 あつめる

まちに関わりのある人から、思い出のある椅子を譲っていただきます。

*椅子募集のお知らせはホームページでご確認ください。

● step2 ぬる

ワークショップを開催し、まちの人々の手で、赤色に塗ります。

● step3 すわる

自由に座れる椅子として、協力店舗などに配置します。



それぞれの椅子には、元の持ち主の「椅子の物語」が付けられています。その思いを知ること、まちの人々が時間を超えてゆるやかに繋がります。

まちなか
設置店舗
募集中!

まちづくり団体「赤い椅子プロジェクト」

www.akaiisu.red

社会的課題の現状

赤い椅子プロジェクトは、日本のさまざまな街において解決すべき問題のうち、特に、次の三点に着目した活動をしています。

- ① 高齢化社会における、移動時の休憩場所確保の困難
- ② 特に地域密着型小規模店舗を中心としたまちづくりの困難
- ③ 大量消費社会における環境負荷の増大

赤い椅子プロジェクトの目指す姿

赤い椅子プロジェクトは、吉祥寺を舞台に、椅子を通して「まち」と「ひと」をつなぐまちづくりを目指します。

赤く塗られた椅子は「まち」の休憩場所として、また「ひと」の思いを共有するアイコンとしても「ひと」をむすび、「まち」の歴史をつなぎます。

活動の目的

上記3つの課題を解決するため、「赤い椅子」を設置したことで、

- ① 街なかに「ちょっと腰を下ろせる場所」を点々と設けることにより、ご高齢の方を始め、様々な方々にとって歩きやすい街を作り出します。
- ② 思い出の椅子を寄附する人、赤く塗る人、設置する人、座る人等々、様々な人々の緩やかなつながりを創出することにより、店舗で働く人と、そこに訪れる人との距離が特に近い小規模店舗を中心として、赤い椅子をきっかけとしてコミュニティを生み出します。
- ③ 街の人が使用していた椅子を街中で引き継いでいくという行為は、椅子の再利用による環境負荷の低減による物理的な循環型社会の実現と共に、人々の記憶や街の歴史の継承に寄与します。

活動の目的達成状況や地域社会への影響や貢献など

これまでに集まった椅子は**107脚**、2018年4月現在の設置場所は**22カ所**、約**50脚**設置、これまでにワークショップに参加した人数は約103名です。最近では街での認知度も高くなり、多くの方に様々な形で関わって頂くようになりました。

設置後に反響が大きかったのは、駅ビル(アトレ吉祥寺店)で、吉祥寺駅の改札を出てすぐのところ、街で一番多くの椅子を置いていただいています。お店の方によると、常連のお客様で毎日お気に入りの椅子に座っていらっしゃる方がいるようです。

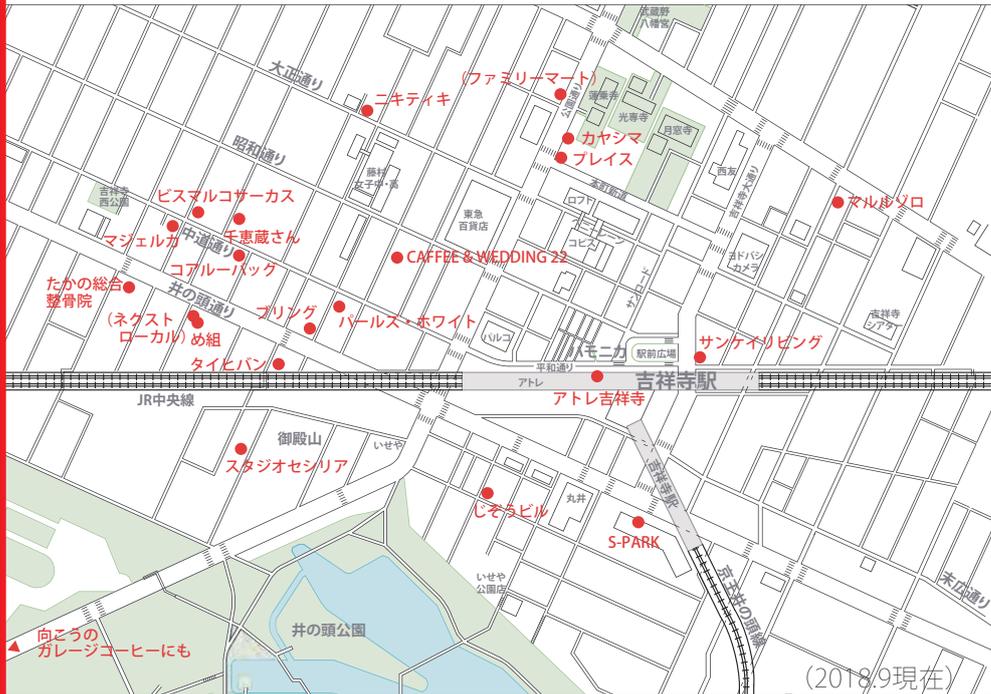
中道通りで宝石店(パールズ・ホワイト)を営んでいる久保田さんは、椅子に座る人がいるのに気が付くと話し掛けるそうです。年齢層はお年寄りから子供まで様々で、お店をやっているだけではつながれない人とのコミュニケーションが増えたと喜んでいました。このように小規模店舗の店頭でのコミュニケーション発生は正に赤い椅子プロジェクトの目指す一つの形です。

このように「赤い椅子」は目に見えるコミュニケーションの契機をもたらし、街に対する当事者意識を醸成し、街をゆるやかに循環しながら、街なかにおける人と人との純粋な触れ合いの機会や、コミュニティ形成に寄与しています。



©KoichiDoyo

配置マップ



参考写真
 上：イベント（キャンドルナイト）での活用例
 下：ワークショップの様子

理念

休憩場所をつくる

街なかに「ちょっと腰を下ろせる場所」を点々と設けることにより、ご高齢の方を始め、様々な方々にとって歩きやすい街を作り出します。



人のつながりをつくる

思い出の椅子を寄附する人、赤く塗る人、設置する人、座る人等々、様々な人々の緩やかなつながりを創出することにより、店舗で働く人と、そこに訪れる人との距離が特に近い小規模店舗を中心として、赤い椅子をきっかけとしてコミュニティーを生み出します。



ものを大切にする心をつくる

街の人が使用していた椅子を街中で引き継いでいくという行為は、椅子の再利用による環境負荷の低減による物理的な循環型社会の実現と共に、人々の記憶や街の歴史の継承に寄与します。

